

市民協働レポート

｜ 活気ある商店街づくり事業 ｜ 産業振興課 ｜

協働形態 : ①共催 ②実行委員 ③協力 ④委託 ⑤その他

01 取組の概要

市、商工会、商店街及び美術関係の学生が協力して、ワークショップを通じ、イベントの立案（実施場所、作品の種類、表現方法、情報発信等）・実施方法を調整し、商店街内の建物等に、ペイント等の「商店街×アート」イベントを開催する。

実施期間 : ①令和3年9月～令和4年3月 ②令和4年4月～令和5年2月

実施場所 : ①東大和市商工会館 ②富士見通り商栄会各店等

イベント期間 : 学生と商店街との調整により決定する（令和4年12月頃予定）。

作品投入数 : ①大規模なアート 1～2か所

富士見通り商栄会内の建物壁やシャッター等にペイントを実施。

②小規模なアート 10～20か所

商店街内の各店舗にペイント、オブジェ設置等を実施。

02 協働のきっかけ

令和3年度に、モデル地域である商店街（富士見通り商栄会）の商店街活性化事業として、市、商店街、株式会社シーズプレイス（チェレステガーデン施設運営事業者）が商店街の発信力向上と活性化に向け、商店街に芸術を取り込む「商店街×アート」事業を行うことを決めた。

令和4年度は、「商店街×アート」イベントを実施する年。商店街の方と参加する学生世代との交流や、新たな文化（芸術）を商店街に導入することは、双方にとっての刺激や楽しみとなり、今後の継続的な交流と商店街の活性化にも繋げていけるよう、アート完成後に発表イベントを実施することとなった。

03 協働の成果

【令和3年度】

商店街の方々、東大和市商工会、美術関係者、株式会社シーズプレイスによるワークショップや意見交換を経て、商店街としては、様々な分野の方とのつながりを構築し、商店街の組織力の強化も図られた。

市としては、取組全体のサポートにより円滑な運営に繋がった。同時に本事業の中で、商店街の課題、状況などをより深く把握することができた。

【令和4年度(想定される成果)】

- ①「商店街」と「アート」の融合による 商店街のイメージアップや認知度向上につながる。
- ②美術関係の学生と商店街の交流により、若年層の商店街利用の増加につながる。
- ③作品の鑑賞のために訪れる来街者など、商店街への理解や認知度向上につながる。
- ④美術関係の学生にとっては、地域に作品発表の場ができ、経験を積むことができる。
- ⑤事業活動を通して、商店街が活性化され、地域に笑顔があふれる。



＼ 協働のパートナー ／

富士見通り商業会

- ・市の商店街活性化事業のモデル地域となっている。
- ・富士見通り商業会は東大和市駅から徒歩7分、市内でも商店が最も多く集まる商店街の一つである。メインストリートである富士見通りには、小学校も面しており、地域とのつながりも深い。また、市や商工会とも地域の活性化にむけた取組を行い、情報発信に力を入れている。しかし、商店経営者の高齢化や事業継承、空き店舗などの課題や問題を抱えている。また、大型店が隣接している環境下で、商店街の維持・発展のためには、専門店の強みを生かした情報発信や、より特化したブランドイメージ作りなどの活性化戦略が、喫緊の課題となっている。

武蔵野美術大学生

- ・大学のキャンパスは小平市、学生寮は立川市と東大和市からも近いことから、市内からも大学に通っていたり、市内の銭湯を利用している学生も多く、東大和市になじみのある学生も多い。
- ・コロナ禍で、芸術イベントの実施が縮小していた中で、学生の芸術作品の発表の場の機会も少なくなっている。商店街の振興に興味のある学生も多く、このイベント事業への期待が高い。

市民環境部 産業振興課

農業、商業、工業、観光の分野の振興を図ることで、市民の暮らしと調和した産業と経済の発展を促すための様々な事業を行っている。